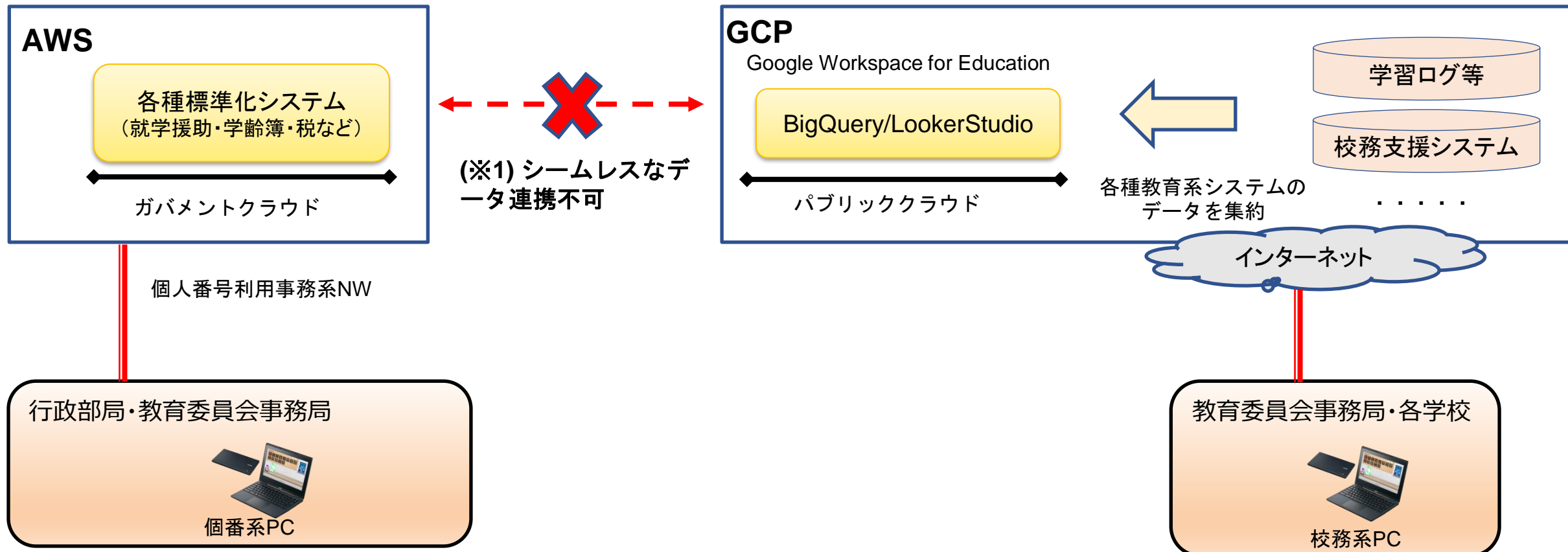


(別紙1)行政系(標準化システム)データとの連携

現状構成

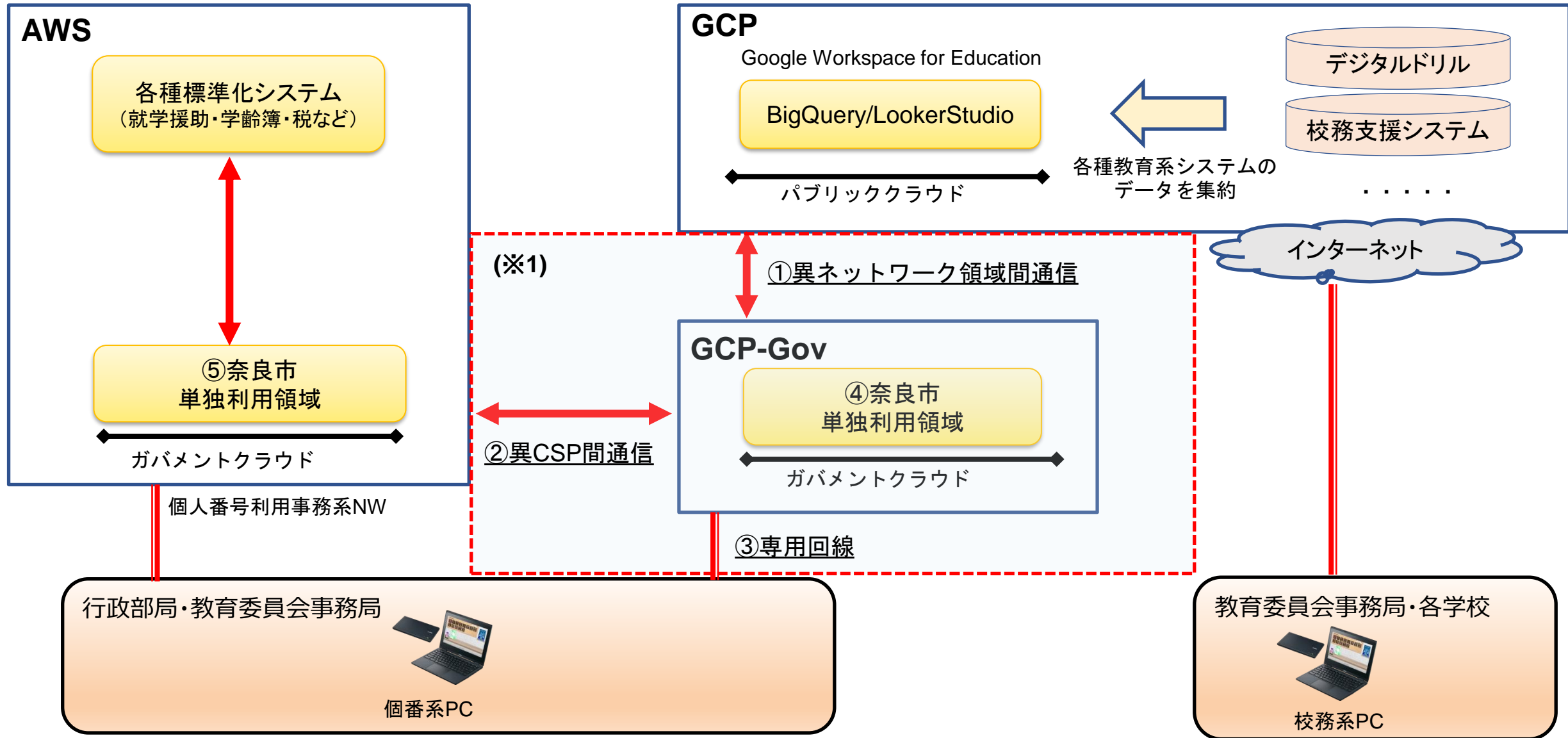


(※1)データ連携の課題

- ✓ 本市において、就学援助・学齢簿等の標準化対象システムはAWS（ガバメントクラウド）上に構築されています。一方で、学校現場の主な情報資産や教育コンテンツのデータは、Google Cloud（パブリッククラウド）のBigQueryに格納される構成をとっています。
- ✓ このため、行政データと教育データが異なるクラウドサービスおよび異なるネットワーク領域に分断されており、現状ではシームレスなデータ連携が困難な状況にあります。

(別紙1)行政系(標準化システム) データとの連携

課題解決に向けた想定構成(※1点線部分)



本課題解決に対して、①②③の通信経路及び④のガバメントクラウド上のデータ格納領域の導入を想定しています。